

ひきこもり問題を “我がこと”に

地域での市民の役割を考える

ひきこもり状態にある方は、146万人（50人に1人）いると言われており、誰にでも起こりうる身近な問題となっています。私たちの周囲の人がもし、ひきこもり状態になったとき、どんな地域社会があるとよいでしょうか。「当事者」、「地域全体」それぞれの視点で一緒に考えてみませんか。

令和7年 **3月8日**（土）
14:00～15:30（開場 13:30）

会場

西東京市民文化プラザ
ONE FOR ALL 西東京 4階

参加費

無料

定員

100名（先着順）

[アクセス]

西武新宿線 田無駅 北口より徒歩（所要時間約8分）



講師

関水 徹平さん

明治学院大学 社会学部
社会福祉学科 准教授



ひきこもりや生きづらさ、社会参加（社会と個人の関わり）の難しさに関心を持ち、当事者・経験者、家族、支援者のお話を聞きながら、社会学の立場から考えてきた。その一方で、個人の経験・生き方・社会参加は、社会保障制度（セーフティネット）のあり方にも大きく影響されているため、社会参加と関係する社会保障のあり方についても研究を進めている。こうした調査・研究を通して、公正な社会とはどのような社会なのか、公正な社会を実現するために何が必要なのかを考えている。

お申し込み

令和7年
2月28日（金）

西東京市地域共生課
☎ 042-420-2808

または

WEB申し込みフォーム
右の二次元コードから

